

第1編 工事等の概要

第1章 工事概要

1. 全体工事概要

東環状大橋（仮称）建設工事

- ・ 橋長L=1,291m
- ・ 幅員W=26.3～32.3m（4車線、両側歩道）
- ・ 河川内橋脚13基（P2～P14）、陸上橋脚1基（P1）、陸上橋台1基（A2）
- ・ 干潟部（P1～P5）橋梁形式：
4径間連続ケーブルイグレット鈹桁橋（575m）
- ・ 一般部（P5～A2）橋梁形式：
5径間連続ラーメン鈹桁橋×2（716m）



工事実施場所

2. 工事進捗状況

工事8年次における進捗状況は、図1-1「平成22年度 発注及び工事進捗状況」に示したとおりである。

3. 平成22年度工事の作業内容

平成22年度工事の作業内容は、表1-1「平成22年度 工事作業工程表」に示したとおりである。

工事期間は、非出水期の11/1～5/31に限定されており、その中でも4月と5月はシギ・チドリの渡りの最盛期なので、騒音の大きい鋼管矢板打設は禁止している。

EAST CIRCULAR "EGRET" BRIDGE CONSTRUCTION PROJECT

(都)徳島東環状線・東環状大橋(仮称)
徳島市住吉6丁目～川内町鶴島

平成23年3月時点

東環状大橋(仮称)の全体一般図

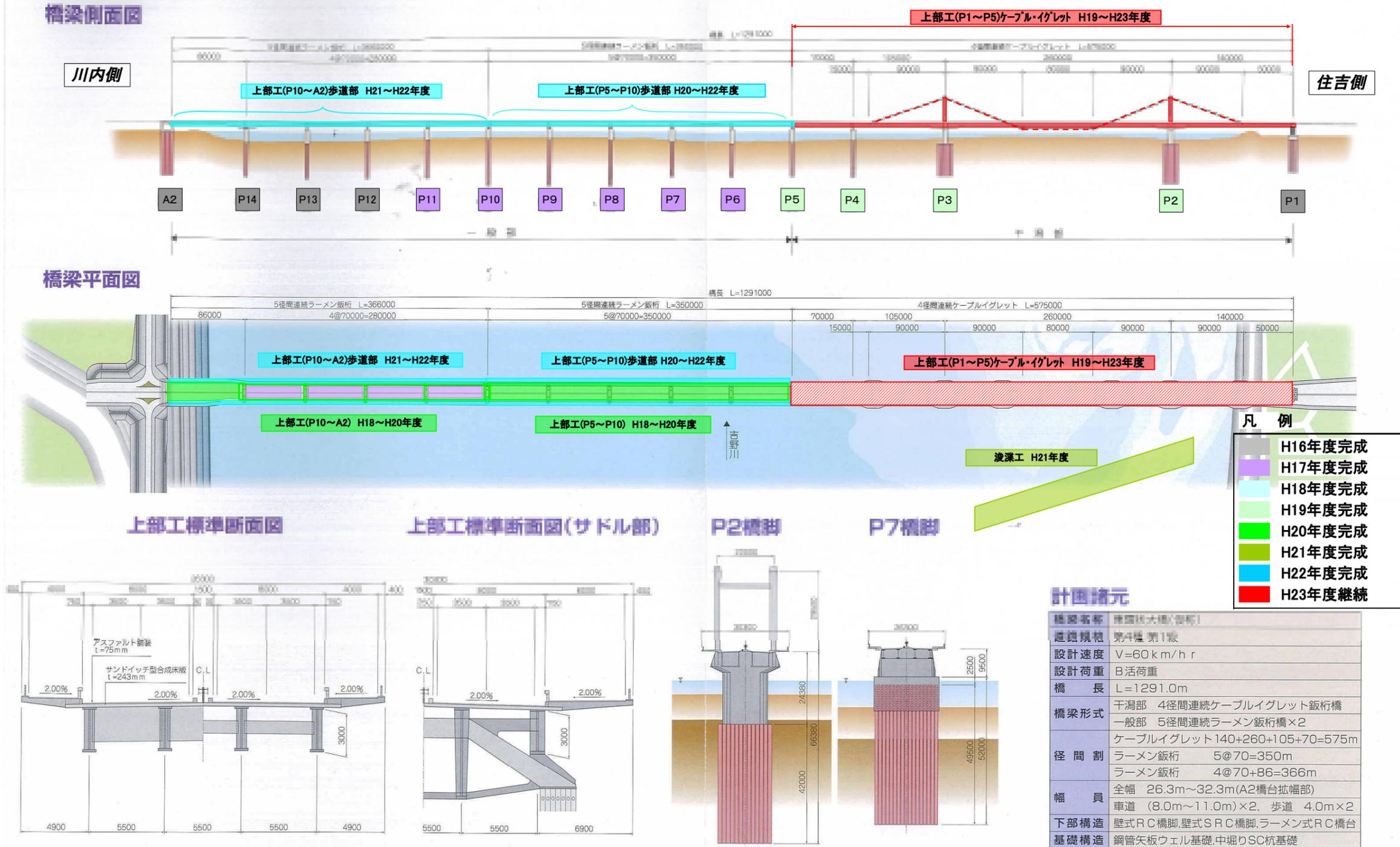


図1-1 平成22年度 発注及び工事進捗状況

表 1-1 平成 22 年度 工事作業工程表

作業場所	工 種	工 事 内 容	濁水処理	平成22年												平成23年		
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
一般部	P5~P10 (河川上)	鋼床版現場塗装工	鋼床版とサンドイッチ床版、鋼床版同士の溶接・ボルト接合部を現場塗装	濁水発生無し														
		付属物工・橋面工	鋼製排水溝・歩車道境界防護柵・高欄照明等付属物工と歩道部舗装工・表層塗布実施	濁水発生無し														
	P10~A2 (河川上)	歩道部鋼床版架設工	既設サンドイッチ床版上よりラフタークレーンにて張出し鋼床版を架設	濁水発生無し														
		鋼床版現場継手工	鋼床版とサンドイッチ床版、鋼床版同士のデッキPLを溶接、ブラケットを高力ボルト接合	濁水発生無し														
		鋼床版現場塗装工	鋼床版とサンドイッチ床版、鋼床版同士の溶接・ボルト接合部を塗装	濁水発生無し														
		付属物工・橋面工	鋼製排水溝・歩車道境界防護柵・高欄照明等付属物工と歩道部舗装工・表層塗布実施	濁水発生無し														
干潟部	P1~P2間 (堤防部含む)	J5~J11主桁等 架設工, 現場継手工・塗装工	河川内ベントによるトラベラークレーン架設後, 順次現場溶接・ボルト接合, 現場塗装	濁水発生無し														
		J11~J13主桁架設工 (P1~P2間主桁閉合)	起重機船にて主桁ブロックを架設閉合後, 溶接・高力ボルト接合	濁水発生無し														
		サンドイッチ床版架設工	側径間主桁上にサンドイッチ床版を敷設, 上鋼版現場溶接工実施 (開口部は覆工設備設置)	濁水発生無し														
		B4~B7ベント解体	B4~B7ベント設備解体, B5~B7ベントH鋼杭をバイプロハンマーにて引抜き	汚濁防止膜を設置し濁水の拡散無し														
	P2~中央径間 (河川上)	剛結部主桁ブロック等 架設工, 現場継手工	剛結部主桁・横桁・主塔基部を起重機船にて架設後, 溶接・ボルト接合, 現場塗装	濁水発生無し														
		剛結部主桁内鉄筋・型枠・コンクリート工	P2橋脚剛結部コンクリート (2ロット) を陸上から配管架台を用いて打設, 施工後架台を撤去	濁水発生無し														
		P2主塔架設工・溶接工, 主塔内コンクリート工	P2主塔コアの建込み後順次溶接工, 第3架設ケーブル緊張前に主塔内充填コンクリートを打設	濁水発生無し														
		中央径間部張出し架設工, 現場継手工	トラベラークレーンにて架設ケーブル (BS・第1~4) を用いた張出し工法により主桁を架設延伸	濁水発生無し														
	P3~中央径間 (河川上)	剛結部主桁内鉄筋・型枠・コンクリート工	P3橋脚剛結部コンクリート (2ロット) をCP船にて河川上より打設	濁水発生無し														
		トラベラークレーン組立て・中央径間張出し架設工	P3橋脚上付近にトラベラークレーンを組立・設置後, 中央径間側に主桁を張出し架設開始	濁水発生無し														
		P3主塔架設工・溶接工, 主塔内コンクリート工	P3主塔コアの建込み後順次溶接工, 第3架設ケーブル緊張前に主塔内充填コンクリートを打設	濁水発生無し														
		中央径間部張出し架設工, 現場継手工	トラベラークレーンにて架設ケーブル (BS・第1~4) を用いた張出し工法により主桁を架設延伸	濁水発生無し														
P3~P5間 (河川上)	J10~J12主桁架設工, P4橋脚鉄骨ベント架設工	起重機船にてP3期部付近張出し主桁ブロックと, 台船架設の受台となるP4鉄骨ベントを架設	濁水発生無し															
	台船一括架設 (J12~J17, J17~P5の2回)	潮位差と降下設備を利用した大ブロック (L=95m, 55m) 台船一括架設を実施	濁水発生無し															
	サンドイッチ床版架設工	側径間主桁上にサンドイッチ床版を敷設, 上鋼版現場溶接工実施 (開口部は覆工設備設置)	濁水発生無し															

4. 平成 22 年度の現場状況

平成 22 年度の現場状況は写真 1~写真 11 のとおりである。

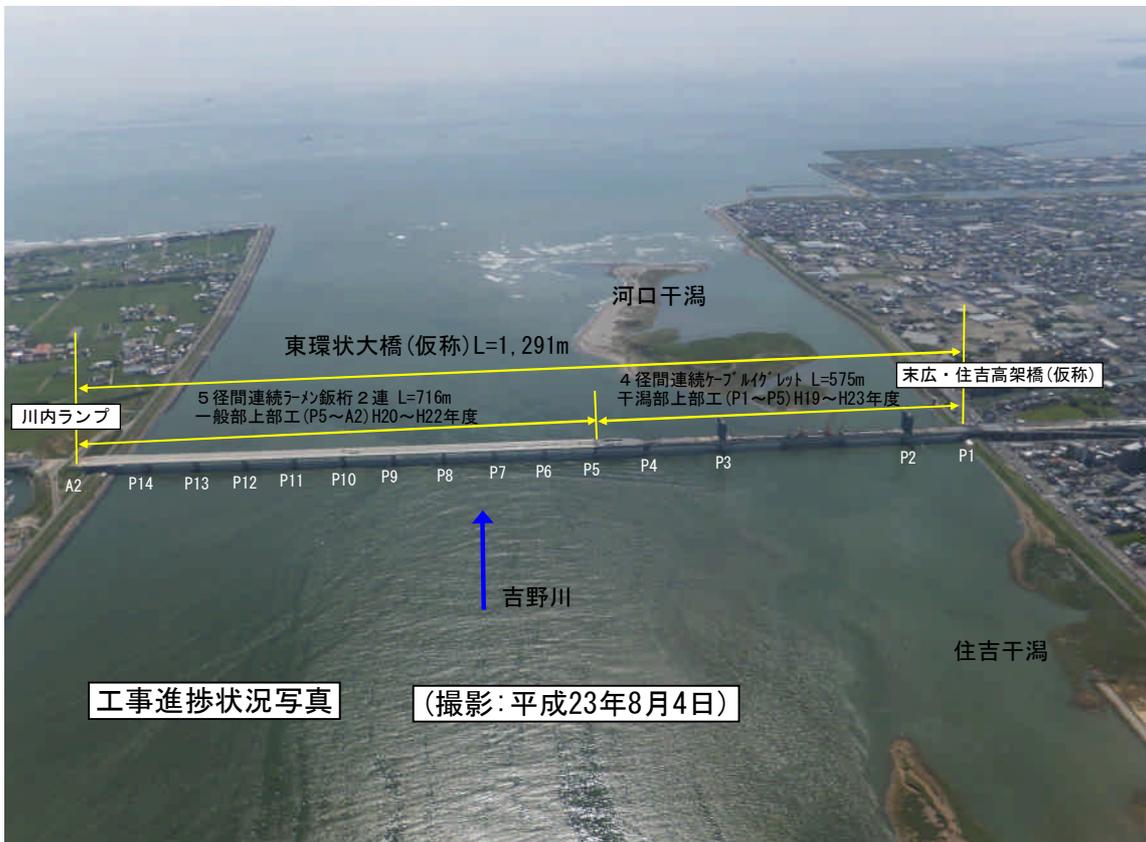


写真 1 工事区域全景 上空より (平成 23 年 8 月)



写真2 (一般部 P5~P10) 歩車道境界防護柵・照明内蔵高欄の設置



写真3 (一般部 P10~A2) 鋼床版ブロック ラフタークレーン架設



写真4 (一般部 P10~A2) 歩道舗装 表層塗装工



写真5 (干潟部 P1~P2 間) J9~J11 トラバークレーンベント架設



写真6 (干潟部 P1~P2 間) J11~J13 主桁ブロック FC 架設 (側径間閉合)



写真7 (干潟部 P1~P2 間) 側径間 サンドイッチ床版敷設



写真8 (干潟部 P1~P2 間) バイブロハンマによる B5 ベント杭の引抜き



写真9 (干潟部 P2 剛結部) 剛結部主桁ブロックを FC にて架設



写真10 (干潟部 P2 剛結部) 堤防からの配管にて剛結部コンクリート打設



写真11 (干潟部 P2 主塔) 主塔ブロック建込み (トラベラークレーン架設)



写真 12 (干潟部 P2~P3 間) 中央径間帳出し架設 (バック・第 1 架設ケーブル支持)



写真 13 (干潟部 P2~P3 間) 中央径間張出し架設 (第 2 架設ケーブル支持状態)



写真 14 （干潟部 P2～P3 間）中央径間張出し架設（第 3 架設ケーブル支持状態）



写真 15 （干潟部 P2～P3 間）中央径間張出し架設（第 4 架設ケーブル緊張後）



写真 16 (干潟部 P3 剛結部) J40~J42 ブロックを FC 架設 (P3 終点側)



写真 17 (干潟部 P3~P5 間) 大ブロック (L=95m) 台船一括架設